

さらなる教育環境の充実を あきた水と緑のツーリズム



「What is this ?(これはなんですか)」

雄和町の川添小学校では、2年生から実践的な英語教育を取り入れています。

ショーン・ローリング先生の授業は、すべて英語。この日は、紙に描かれた絵を英語で答える授業です。先生の質問に、お友達がどう答えるか、みんなドキドキ。

英語への興味が、異文化に対する興味へと広がります。

「大胆な改革で、さらなる教育環境の充実を」

ただいま「あきた教育新時代創成プログラム」を策定中

「教育は百年の大計」といわれます。これは、教育の成果は短期間では表れにくいこと、子どもに対する教育次第で、次代の社会が大きく変わる可能性があることを意味しています。

県はいま、将来を担う子どもたちに確かな力をつけてもらうため、教育環境の充実とより効率的な教育行政を進める「あきた教育新時代創成プログラム」を策定しています。

これまでの県の取り組みを教えてください

他県に先駆け、ふるさとに誇りを持ち、心豊かでたくましく生きぬく力をもった子どもを育成する「ふるさと教育」や30人程度の学級編制を中心とした「少人数学習」の推進などに力を注ぎました。

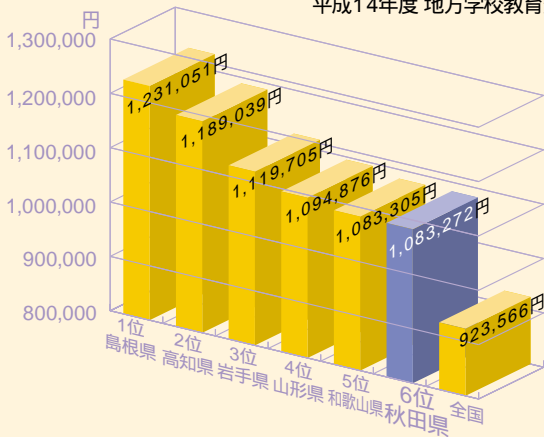
こうした取り組みの結果、教育に関する主要な指標は全国上位に位置しています。



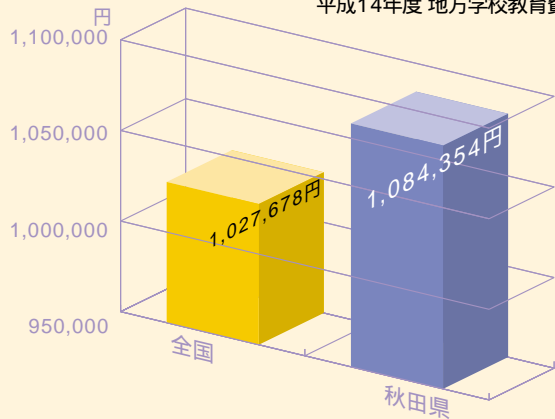
県教育委員会教育長 小野寺清

全国との比較による本県の状況

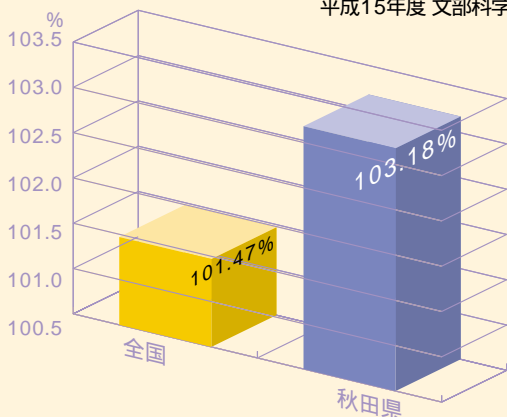
児童1人当たりの教育費(小学校) 全国6位
平成14年度 地方学校教育費調査より



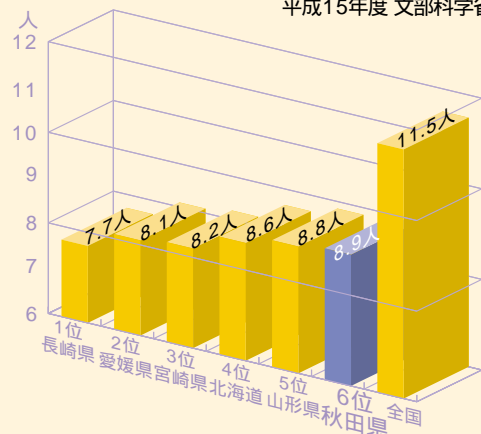
生徒1人当たりの教育費(中学校) 全国12位
平成14年度 地方学校教育費調査より



国の基準に対する教職員の割合 全国5位
平成15年度 文部科学省調べより



不登校児童生徒数(1,000人当たり) 全国6位
平成15年度 文部科学省調べより



県はこれからも優れた教育を 続けていくことができますか？



少人数学習などに積極的に取り組んだ結果、国の基準に対する教職員の割合は全国5位という高い水準になりました。指導の力量を高めるための研修講座の充実を図っていますが、その一方で、少子化に歯止めがかからず、学校の活性化はもとより、活力が弱まる恐れがあります。

国・地方自治体の財政難や三位一体の改革という大きなうねりの中で、将来的にこれまでのような教育水準の維持が困難になることが予想されます。

そのため「あきた教育新時代創成プログラム」を年内に策定し、時代の大きな変化にも対応できる教育体制づくりを進めることとしました。

「あきた教育新時代創成プログラム」 について教えてください



教育水準を維持・向上させるため、学校の活力を維持するための教員採用制度の見直し、教職員の資質能力の向上を目指す新しい人事評価制度の導入、より効率的な学校経営を進めるための教職員の適正配置、生徒数を勘案した高等学校の再編整備などに取り組みます。

また、校長や教頭、事務職員が行う学校の管理的業務を抜本的に見直すとともに、義務教育分野における県と市町村との役割分担などを明確化していきます。

このプログラムによって、コストの縮減や業務の見直しが進み、より充実すべき分野に集中的に教育資源を投じていくことができるようになります。

少子化が進むなかで教育水準を 維持・向上していくための 教員配置計画を教えてください

プログラムでは、児童生徒数の減少や学校統合により、平成25年度までに教職員数が現在の定員より15パーセント減少すると見込んでいますが、学校規模に応じた教職



員数や少人数授業などに必要な教職員の配置は、これまでどおり確保します。

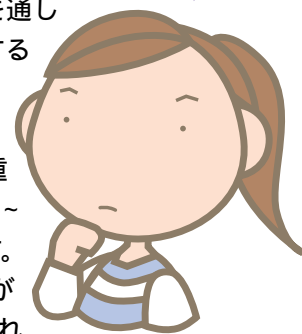
また、制度上、1年限りの任期である臨時講師や非常勤講師の中から、3年間継続した勤務が可能となる任期付教員を採用し、より安定した学校経営ができるよう、重点的に教員を配置していきます。

なぜ高校の統合が必要なのですか？ 小規模校でもよいのでは

高校は、授業や部活動などを通して、実社会や大学などで活躍するために準備するところといえます。さまざまな個性をもつ生徒や教職員との出会いがとても重要です。そのため、県は1学年4～8学級が望ましいと考えています。

10年後には中学校卒業生数が9000人台になる見込みです。これは平成元年度の約半分です。このままでは多くの高校が1学年2～3学級規模の小規模学校となってしまいます。

統合は、来春実施するというのではなく、5～10年先を見込んだものです。ただし、地域バランスから、場所によっては小規模校のまま存続させていくこともあります。



地域から小・中学校が なくなってしまうのですか？

小・中学校の統合を実施するかどうかは、設置者である市町村の判断になります。複式学級の学校や分校としての存続、小・中学校の連携も考えられます。

県は児童生徒の教育環境の向上を図るため、適正な学校規模に関する考え方を示すとともに、教育の機会均等の立場からこれらを積極的に進める市町村を支援します。



お問い合わせ 県教育庁総務課
TEL 018(860)5112 FAX 018(860)5851
ホームページ <http://www.pref.akita.jp/kyosomu/top.html>

あきた水と緑の ツーリズム

県北地域の
魅力

県北地域は、白神山地や十和田八幡平国立公園などの自然環境に恵まれ、多彩な食文化、美しい農山村風景など、「癒し」や「学び」の観光素材があふれています。現在、グリーンツーリズムやエコツーリズムなど「自然体験型ツーリズム」のメッカを目指して、さまざまな取り組みが行われています。

「あきた水と緑のツーリズム」シンポジウム

9月12日、鷹巣町で「世界自然遺産・白神山地の恵み 癒しと学びの郷から」をテーマにシンポジウムが開催され、およそ350人が参加しました。

はじめに、作家のC.W.ニコルさんが「人と自然との共生」と題した基調講演を行いました。ニコルさんは「自然を大切にし、自分たちが住みたいと思えるような村をつくること、結果として観光振興にもつながる」と、住民同士が語り合い、環境保護活動や地域づくりを進めることの大切さを強調しました。

寺田知事やニコルさんらも参加したパネルディスカッションでは、「ルールを守らない入山者には厳しい対応が必要」地元の人々のちょっとした心づかいで、旅行者の印象がずいぶん良くなる」といった発言があったほか、会場からも「地元の食材でおもてなしをしたところ大変喜ばれた」という体験話が披露されました。



講演するC.W.ニコルさん

水と緑のツーリズム・モニターツアー

9月から10月にかけて、初の試みとして、県北の隠れた魅力を紹介・発掘するためのモニターツアーが各地で開催されました。

マタギと過ごすツアーや、米代川カヌー・クルージングなど、7コースのほとんどが、募集後すぐに定員に達する人気ぶり。県では、地元市町村や関係団体とともに、参加者の声を参考にして、今後、県北の「自然体験型ツーリズム」をより一層盛り上げていくことにしています。

「マタギと過ごす秋の一日」ツアーのひとこま

水と緑のツーリズム・ガイドブック

県北の魅力が満載のガイドブックが発行されました。主な見どころを写真付きで紹介しているほか、山、滝、名木、高山植物などの情報も掲載され、評判も上々です。県北地域の「道の駅」や市町村、観光協会などで配布しています。



お問い合わせ 県観光課県北地域振興班 TEL0186(60)0013 FAX0186(60)0014



情報公開課にお寄せいただいた「おたより」の中から、心なごむ一言や県政に対するご意見、広報紙の感想などを紹介します。

表紙を飾った若き消防士たちの姿が格好よかったです。私たちの生活を守ってくれる立派な消防士になってくれることを期待します。応援しています。

(42歳・女性)

県の財政が厳しいようですが、わが家も同じです。限られた予算の中で節約と工夫してやっていくしかないのです。お互いがんばりましょう。

(38歳・女性)

県の行財政改革としての県債発行の抑制は、評価できます。借金を減らしてこそ、健全な県政が行われると期待します。

(65歳・男性)

うつ病は、普段から職場に仲間を作り、話したり、声を掛け合いながら、未然に防ぐことが大切ではないでしょうか。心掛けでうつ病は減っていくと思いました。

(29歳・男性)

防災対策。この間の台風で思い知らされました。停電するし、必要なものを全然準備していないし。大人だけなら我慢できるけど、子どももいるし。これから少しずつそろえたいです。

(35歳・女性)

高齢者の交通事故死者が増えているとのこと。自分だけは大丈夫と思いがちですが、そんなことはありません。改めて気を引き締めないと。

(66歳・男性)

—台風の影響を受けた農業分野を中心に必要な事業を進めます—

平成16年度

9月補正予算の あらまし

8月から9月にかけて相次いで台風が通過し、沿岸部を中心に、水稻などの農作物が大きな被害を受けました。また、県が供給した「ひとめぼれ」の中に、酒米が混入するという問題が起きました。

9月補正予算では、こうした農業分野への支援を重点的に行うとともに、秋田わか杉国体や看護学院の移転準備など、緊急性の高い事業に必要な予算を計上し、積極的に進めていくこととしています。

補正額23億8,032万円

補正後の予算額7,173億8,375万円

昨年度9月補正後の予算と比べて6億5,422万円、0.9%の減

台風による被害対策1,021万円

借入金への利子補給

被害にあった農業者や漁業者が金融機関から借り入れた事業資金(融資枠15億円)への利子補給を行います。

農業者への助成

(債務負担行為額 1億8,052万円 期間 平成16~17年度)
市町村が策定する「台風被害対策計画」に基づいて、次の経費を助成します。

- ・ 著しい被害を受けた稲の刈り取りに必要な経費
 - ・ 来年の作付けに必要な稲や大豆の種子の購入に必要な経費
 - ・ 被災した稲を堆肥などに利用する場合、その収集や運搬などに要する経費
 - ・ ハウスなどの生産施設の再生や廃材の処理に必要な経費
- 債務負担行為...数年にわたって債務を負う場合に、あらかじめ予算の中で、翌年度以降の債務の負担を定めること。

漁業者への助成

台風で壊れた漁網の買い換えなどに必要な経費を助成します。

ひとめぼれ異品種混入対策5,476万円

混入米の流通を防ぐための経費や平成17年の作付けに必要な種子を調達するための経費を助成します。

県立衛生看護学院の移転整備調査47万円

横手市に移転を予定している県立衛生看護学院の機能や役割などを検討するため、学識経験者などで構成される検討委員会を設置します。

田沢湖スポーツセンターの建設

(継続費 13億9,115万円 事業年度 平成16~18年度)

秋田わか杉国体に向けて、老朽化が著しい田沢湖スポーツセンターの改築を行います。

継続費...2年以上にわたって実施する事業について、事業を開始する年度に経費の総額と年割額を定めること。

お問い合わせ 県財政課 TEL 018(860)1101 FAX 018(860)3805 ホームページ <http://www.pref.akita.jp/zaisei/>

健康 新時代 七三十一 vol.7

防げる脳卒中のはなし

秋田県は、脳卒中が原因で亡くなる人の割合が全国一です。平成15年の脳卒中死亡率(人口10万人当たり)は164.0で、全国平均104.7を大きく上回っており、1,909人が亡くなっています。また、脳卒中は死に至らないまでも、後遺症が残りやすい病気です。

高齢化が進む中で、脳卒中にかかる人がますます増える心配もあります。しかし、食生活の見直しや適度な運動など、生活習慣を改善することで予防が可能な病気なのです。

脳卒中予防に大切なことは?

最も大切なのは、高血圧を防ぐことです。血圧が高いと血管の老化(動脈硬化)が早く進み、脳の血管が詰まったり(脳梗塞)破れたり(脳出血)します。また、脳卒中だけでなく、心臓の筋肉に栄養を運ぶ動脈の硬化も進みやすく、虚血性心疾患(心筋梗塞など)を引き起こしたりします。

1mmHgの血圧低下は、5%の脳卒中減少につながると言われています。脳卒中が最も起こりにくいのは「至適血圧」と言われる最大血圧120mmHg未満、最小血圧80mmHg未満の範囲。

高血圧の人だけでなく、血圧が正常といわれる人も、至適血圧に近づけるよう、心掛けましょう。



お問い合わせ 県健康対策課 TEL 018(860)1422 FAX 018(860)3821

情報のひろば

募集

第11回チームロープジャンプ(長縄跳び)大会

長縄跳びで連続して跳ぶ回数を競う「チームロープジャンプ大会」。チームの団結力による息を合わせたジャンプが勝利のカギです。
募集期間 11月17日(水)～12月10日(金)
募集定員 ジュニア部門(小学生)、エンジョイ部門(年齢制限なし)計40チーム
参加費 1人200円(保険料含む)
大会開催日 12月23日(祝)
 午前9時～午後3時

☎**県立武道館**
 TEL018(862)6651 FAX018(896)6433

催し

麻薬・覚せい剤乱用防止運動秋田大会

「麻薬・覚せい剤乱用防止運動」の一環として、薬物の乱用による弊害を皆さんに正しく理解してもらい、乱用を許さない社会環境をつくるために開催します。
日時 平成16年11月19日(金)
 午後1時30分～午後4時
場所 秋田市文化会館
内容 特別講演(水谷修さん)
 「さらば、哀しみのドラッグ」
 高校放送部制作「薬物乱用防止ビデオ」コンテスト

☎**県医療薬事課**
 TEL018(860)1407 FAX018(860)3883

知の種苗交換会

県立大学や公設試験研究機関の研究成果の公開、産学官による共同研究の事例発表を行います。
日時 11月16日(火)
 午後2時～午後6時30分
会場 秋田キャッスルホテル(秋田市)
内容 プレゼンテーション、共同研究事例・機関紹介、ポスターセッション、交流会など

☎**県立大学地域共同研究センター**
 TEL018(872)1557 FAX018(872)1673

お知らせ

ソウル便利用の助成制度

「秋田空港の国際化と利便性を高める会」は、11月から、ソウル便を利用して外国で視察や研修などを行ったグループに、人数に応じた助成金を交付します。
実施時期 平成16年11月・12月
 平成17年1月・2月
助成内容 10人以上の団体に対し、1人5千円で積算した額を交付します。
 出発14日前までに「事業計画書」を提出してください。

☎**県秋田・韓国交流促進チーム**
 TEL018(860)1283 FAX018(860)1291

障害者用パソコン周辺機器の購入費助成制度

障害者の情報バリアフリー化を推進するため、パソコン周辺機器やソフトなどの購入費用を助成します。
 助成対象者など、詳しくはお問い合わせください。
 ☎**市町村・県各福祉事務所**
 または**県障害福祉課**
 TEL018(860)1331 FAX018(860)3866

青少年健全育成秋田県大会

～横手平鹿小中高フェスタ2004との同時開催～
 将来の秋田を担う元気印の青少年が今の熱い気持ちを全県民に発信します。
期日 11月28日(日)
 午後12時30分～午後2時
会場 秋田ふるさと村(横手市)
内容 「レッツトーク(寺田知事と高校生によるパネルディスカッション) 秋田県善行青少年・青少年健全育成功労者表彰

☎**県民文化政策課**
 TEL018(860)1552 FAX018(860)3891

風しんの予防接種を受けましょう

妊娠初期の女性が風しんにかかると、先天性の心臓病などを持つ子どもが生まれる恐れがあります。
 特に接種率の低い10代後半から40代の女性や妊娠女性の夫、子供、同居しているご家族は、予防接種を受けましょう。

☎**県健康対策課**
 TEL018(860)1424 FAX018(860)3821
 または**最寄りの保健所**

早くなくそうサービス残業!

11月は賃金不払残業解消キャンペーン期間です。秋田労働局はこれに合わせて、

労働者や企業からサービス残業などの電話相談を受け付ける「全国一斉無料相談ダイヤル」を開設します。

日時 11月23日(祝)
 午前9時～午後5時
相談電話 0120(89)7933

☎**秋田労働局監督課**
 TEL018(862)6682 FAX018(862)6370

11月30日は個人事業税2期分の納期限です!

個人事業税は、県内に事務所や事業所などを設けて個人で事業を営んでいる方に、所得税の確定申告書や住民税の申告書に基づいて課税される税金です。
 お手元にお届けする納付書で、11月30日(火)までにお近くの金融機関で納税してください。
 ☎**最寄りの県地域振興局県税課(部)**

「女性に対する暴力をなくす運動」期間

11月12日～25日まで、DV(ドメスティック・バイオレンス)性犯罪、売買春、セクシュアルハラスメント、ストーカーなど女性に対する暴力をなくし、一人ひとりが幸せなパートナーシップを築く社会を目指す運動を展開します。
 暮らしのさまざまな不安や悩みを抱えていたら、一人で悩まず、まずはご相談ください。秘密は固く守ります。
相談窓口 ハーモニー相談室
 [中央男女共同参画センター内]
 TEL018(836)7846
 月～土曜日/午前9時～午後5時
 ☎**県男女共同参画課**
 TEL018(860)1555 FAX018(860)3895

安心・信頼のSマーク

Sマークは、厚生労働大臣認可の標準営業約款に従って営業している理容・美容・クリーニング業のお店に表示が認められています。
 確かな技術、衛生、安心をお約束する信頼のマークです。
 ☎(財)県生活衛生営業指導センター
 TEL018(835)0020 FAX018(835)9025



平成16年版「実務秋田県例規集」

県の条例、規則などをコンパクトに整理した「実務秋田県例規集」を発行しました。
内容 6月25日現在の条例、規則など
価格 5,700円
 ☎**県総務課**
 TEL018(860)1055 FAX018(860)1056

テレビ

こちらお茶の間情報局

- ABS 毎週日曜日11:00~11:15
- 11月7日 働く明日へステップアップ!
~県内高校生の就職支援~
- 14日 秋田県児童会館・
子ども博物館へ行ってみよう!
- 21日 在住外国人支援
- 28日 高校生が学ぶ薬物の危険性

秋田花まるっ

- AKT 毎週月曜日21:54~22:00
- 11月1日 コミュニティビジネスがつなぐ地域の輪
- 8日 新しい道の駅~清水の里・鳥海郷
- 15日 魅力ある秋田スギ活用住宅 第2弾
- 22日 誕生!秋田県認定リサイクル製品
- 29日 マンスリー県政情報

あきた東西南北

- AAB 毎週土曜日9:30~9:45
- 11月6日 めざせ職人!県立技術専門校
- 13日 美郷町誕生~平成の合併第1号~
- 20日 安全・安心まちづくりに向けて
- 27日 魅力いっぱい!ソウル便
(アンコール放送)

ラジオ

- 県庁だより
- ABS 月~金11:45~11:50
- モーニングスマイル
- エフエム秋田 毎週土曜日 8:30~8:55



広報の窓

あんな声こんな声

問 わが国の食料自給率は40%と記憶していますが、輸入食材に依存できない時のことも十分考慮にいった対策が必要かと思ひます。

それらに対する現状認識と食料自給率の向上対策をお聞かせください。(「県政モニター通信」より)

答 国民が必要とする食料を国内生産でまかなうことは、国家の基本として極めて重要であると考えています。

しかし、わが国の食料自給率は、昭和40年度の73%から平成14年度の40%へと大きく低下しています。これは、輸入に頼らざるを得ない大量の飼料を必要とする畜産物や食用油など油脂類の消費量が大幅に増加する一方で、1年間に食べる米の消費量が、1人当たり111.7kgから62.7kgへと大幅に減少したことに起因しています。

食料自給率を高めるためには、食生活の見直しなど消費面からの取り組みを進めながら、安全な食料の安定供給に努める必要があります。

農業県である本県では、消費者ニーズに対応したマーケティング対応型農業を基本としながら、トレーサビリティシステムの導入などにより、安全で安心な食材の供給に努めています。

また、新鮮で安全な地場農産物の良さや、農村の伝統ある食文化が広く県民に評価されることが大切であることから、直売活動、地産地消、スローフード運動などを、消費者と生産者が一体となって進めています。

今後とも、マーケティング対応型農業の展開と各地域における地産地消などの取り組みをしっかりと定着させながら、食料自給率の向上に努めていきます。

◎農林政策課 TEL 018(860)1723

春夏秋冬
こぼれ話

シリーズ68

文 小西 一三 / 絵 小西由紀子

あぜ道を跳ねるイナゴの群れは
安心安全な米を作るため



稲刈りが
すっかり
終わってしまうと
こんな草の
ある場所に
集まるんですよ

あぜ道を歩く
と無数のイナ
ゴが飛び出す。
中には田んぼ
の稲ワラに着
地するもの
もいる。

大川 澄雄 さん(60)

稲刈り後の大瀧村 田んぼのあぜ道を歩くと、足元から無数のイナゴがバサバサと跳び出してくる。元氣よく飛び跳ねるイナゴを見ていたら、狩猟採取の本能が刺激されてしまった。そうだが、イナゴの佃煮を作ってみようと思ひ始めたが、「それは効率が悪いですよ。手で捕るんだったら気温の低い朝方のほうがいいですよ。動きがにぶくて簡単に捕まえられずから…」と案内していただいた大川澄雄さん(60)に笑われてしまった。

「この前なんか、オートバイに虫捕りの網を二つくり付けてあぜ道を走っている人がいましたよ。オートバイに驚いたイナゴが跳ね、その中の何匹かが勝手に網の中に入るといふ仕掛け。走り回るだけでイナゴが捕れるんですから、よく考えたもんですね」と大川さんは感心する。大瀧村の農地に大量のイナゴが生息するようになったのは、村が一丸となって環境保全型の農業に取り組み始めてから。空から農薬を散布する航空防除は十八年ほど前に中止。以来、手間はかかるが農薬や化学肥料の使用を極力控えた農業を行っている。イナゴの大量発生はその証だといふのだ。

イナゴは稲の葉を食い荒らす害虫なのでは?と聞くと、ある程度葉は食べられるけど、収穫期のモミは食べない。葉が食べられて収量が少々落ちててもそれは仕方ない。安全、安心の米を作るためだから」と村の人たちは割り切っているという。

ところで、イナゴといえはやっぱり佃煮が目につく。私は熊本県出身ですけど、作ったことはない。あれで茹でてから一匹一匹足を落としたり、かなり手間がかかるらしいですね。でも、村内には自家用に佃煮を作っている人がけっこういますよ」と大川さん。イナゴの群れを見ていたら、ボクも佃煮を作ってみたくなりました。

パブリック・コメントのお知らせ

県が進めようとする施策について、県民の皆さんから幅広く意見をいただくためのパブリック・コメント制度。今月は4件予定されています。

秋田県次世代育成支援行動計画(素案) 11月上旬

お問い合わせ 県子育て支援課 TEL018(860)1342

秋田県県外産業廃棄物の搬入に係る事前協議等に関する条例の一部改正について 11月上旬

お問い合わせ 県環境整備課 TEL018(860)1622

あきた文化振興ビジョン(仮称) 11月中旬

お問い合わせ 県民文化政策課 TEL018(860)1531

秋田県地域福祉支援計画(素案) 11月下旬

お問い合わせ 県福祉政策課 TEL018(860)1316

詳しい内容などは、県のホームページをご覧ください。

ホームページ <http://www.pref.akita.jp/kaikaku/public/ichiran.htm>

100万人の環境講座 NO.8

酸性雨

冬の空気は澄んでいてきれいというイメージを持っていませんか。でも、空気をもっとも汚れる季節は冬なんです。特に11月から12月は、空気中の窒素酸化物(NOx)がもっとも多くなっています。

この空気中のNOxや硫黄酸化物(SOx)が化学反応を起こし、酸性の強さを示すpH値が5.6以下となった雨を「酸性雨」といいます。

NOxの大半は自動車の排気ガスから出されます。また、家庭や職場の暖房もNOxを増加させる原因です。

欧米では酸性雨が原因で、魚が死んだり、森林が衰退したという報告があるほか、コンクリートの強度を弱めるともいわれており、私たちの生活に大きな影響を与えます。

NOxを排出しているのは、私たち自身です。マイカー通勤から自転車通勤に変えたり、暖房は暖めすぎないようにするなど、日ごろから省エネに努めることが地球環境の保護につながります。

お問い合わせ 県環境政策課

TEL 018(860)1604 FAX 018(860)3881



正解者の中から抽選で、10人の方に図書カード(千円分)をお贈りします。

問題 脳卒中のもっとも起こりにくい血圧が「至適血圧」さて、その範囲はいくらでしょう?(P5参照)

- (1) 最大160mmHg未満、最小90mmHg未満
- (2) 最大140mmHg未満、最小85mmHg未満
- (3) 最大120mmHg未満、最小80mmHg未満

応募方法 答え、郵便番号、住所、氏名(読みがな)年齢と本紙の感想などをお書きのうえ、〒010-8570県情報公開課クイズ係(住所は不要)あてお送りください。締め切りは11月26日(消印有効)、ハガキ、ファクス(018-860-1072)、Eメール(sinjidai@mail2.pref.akita.jp)でどうぞ。

9月号の正解は「2」約400通でした。応募279通、うち正解277通の中から抽選で次の方々当選されました。高野和美さん(鷹巣町)、安谷屋裕子さん(井川町)、星野美代さん、宮田蘭那さん、大原まゆみさん(以上秋田市)、荘司マス子さん(西目町)、太田寿恵さん(鳥海町)、今野正彦さん、田村みずほさん(以上大曲市)、内藤真理子さん(増田町)

編集部から

台風による災害が起こると、日ごろの備えの甘さを痛感します。また、携帯電話とラジオが災害情報の命綱となることもよくわかります。県は、携帯版「美の国あきたネット」を開設し、災害などの緊急情報もいち早く掲載しています。

アドレスは、i-mode・EZWeb版 <http://www.pref.akita.jp/mobile/i/>
Vodafone版 <http://www.pref.akita.jp/mobile/j/>

今月からQRコードを導入しました。コードリーダー機能付きの携帯電話を使うと、このコードを読み込むだけで簡単にアクセスできます。



QRコード

游学

さんぽみち

ブルーメッセあきた

南秋田郡昭和町 TEL 018(855)6041

「シクラメンフェア」

昭和町産のさまざまな品種のシクラメンを数多く展示・販売する人気のフェアです。黄色いシクラメン「ゴールデンボーイ」や花卉が二重に見える「冬桜」など珍しい品種も多数展示します。

日時 11月18日(木)~23日(祝)午前9時~午後6時
入場料 無料

ホームページ <http://www.pref.akita.jp/kaki>

[blumemesse_hp.html](http://www.pref.akita.jp/kaki/blumemesse_hp.html)



県立博物館

秋田市金足 TEL 018(873)4121

博物館教室「わくわく隠れアイテム」

わくわくたんけん室の宝箱で、普段は体験できないアイテムを楽しめます。

開催日 11月27日(土) 12月11日(土) 12月25日(土)

時間 午後1時~午後3時

対象 小学5年生~

募集人数 各回20名

ホームページ

<http://www.akita-c.ed.jp/hakubutu/index.htm>



秋田市文化会館

秋田市山王 TEL 018(865)1191

第4回「心いきいき芸術・文化祭」

障害を持つ皆さんが日ごろの芸術・文化活動の成果を発表します。

期間 12月9日(木)~11日(土)

内容 講演(俳優・竹脇無我さん)、コンサート(わらび座・夢わーく)、ミニコンサート、美術工芸作品の展示など

◎県障害福祉課

TEL 018(860)1335

FAX 018(860)3866



県政だより「あきた新時代」は県内全世帯にお届けしています。ご近所などで配達されない方がおられましたら、県情報公開課までお知らせください。また、感想などをお待ちしています。

県政だより「あきた新時代」は県のホームページ「美の国あきたネット」で紹介しています。

アドレスは、<http://www.pref.akita.jp/>

県政だより「あきた新時代」は、点字版、音読テープ版も発行しています。ご希望の方は、県情報公開課までお知らせください。



県人口 1,159,607人 (-495)

男 548,280人 (-219)

女 611,327人 (-276)

世帯数 398,543世帯(81)

(平成16年9月1日現在の推計値。カッコ内は前月比)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています